

毎週金曜日

夜七時より

市民館三階

釜ヶ崎夜間学校

みんなでつくろう

みんなの会館

三人よれば何とかの知恵

夜間学校 ニュース

1987年12月11日
西成区萩之茶屋2の
8の9 旅路の里気付
釜ヶ崎夜間学校

在日朝鮮人・韓国人の
指紋押なつ拒否断固支持！
定住外国人に市民権を

越冬でなぜ多くの人が釜に来るのか

それを考えることが自分を知らなくてもある

先週の夜間学校ニュースを配っている時に、一人の仲間が、一体だれがモク代支給のときに百四万円ものカンパを集めたのか、と聞いてきた。

モク代支給の前に、夜間学校ニュースで、越冬闘争へのカンパを呼びかけたので、報告とお礼の意味で簡単に額と共に書いたのだが、不十分だったようだ。カンパを集めたのは、釜日労が呼びかけて結成したモク代越冬闘争実行委員会でした。額は百四万円。(ウラフ、続く)

仲間の死 その17

本籍、住所不詳、氏名自
松平沼集、35歳位の男子、
身長175cm、短髪、入墨(背
中、両肩)一見労働者風、
遺留金0円なし

右の者は、昭和60年8月
12日午後1時頃、西成区萩
之茶屋二一七一七失路上
にて発見されたもので、同
日午前6時ごろ(推定)、
同所において凍死したものと
思われる。

勇、53歳位の男、遺留
金0円現金2750円、時計1
個

右の者は昭和60年3
月1日午後10時ごろ、
西成区山王スースー3
第3豊島荘スースー16号室
にて発見されたもので、
2月27日、同所におい
てアルコール性心不全
のため死したものと
思われる。

(官報掲載のものを
釜ヶ崎自書より転載)

凍死

アルコール性心不全

第十八回釜ヶ崎越冬闘争支援連帯集会
十二月十二日(土)午後六時より芦原橋部落解放センター

オモテカリ

あらためて、仲間の協力に感謝を、そして、二五日の支給の時にも協力をよろしく願います。

また、十二日(明日)の夜には部落解放センターで越冬闘争への支援連帯集会が開かれるので、釜からも多くの仲間が、都合をつけて、参加されるようお願いいたします。

マア、二二二二二二をお願ひするといふのをおかしくなもので、越冬といふのは、そもそも、釜の仲間から一人の死者も出さないといふことで、釜のいわば仲間うちから始まったものだ。多くの仲間の関心もあることと思ひ、自ら積極的にカンパする仲間も多いわけた。それと同様に、支援連帯集会にも自発的に参加する仲間もいると思ひ、釜の労働者の越冬であるのだ

から、それがまた当然のことだと思ひ。

支援連帯集会といふのは、三角公園でおこなわれる越冬突入集会とちがって、釜の仲間にとっては、やや遠い気がすると思ひ。ようするに外向けの集会の性格が強いわけだ。

毎年釜でくり返されている越冬闘争とはどのようなものか。マア、みているから判っているといふようなものだが、同じことでも、違った場所で聞く説明で、新しい発見があるかも知れない。

また、釜の越冬を闘おうとする人達はどうな人達なのかを知るよい機会でもある。越冬闘争の時期には実にたくさんの人達が釜ヶ崎を訪れる。そして、医療センター軒下のフロンテスキヤ寝ずの立番、夜間の

パトロールなどに協力している。機動隊になぐられてケガをする人もいる。

一九七二年十二月二十九日の「日刊えつ」とりには、越冬の目標として次の六つが書かれていた。

- 一、一人の仲間を殺させない。
- 一、労働者どりのみんなの力で越冬をやりきる。
- 一、応援に来た者は釜を真に理解する場にする。
- 一、行政糾弾のため、苦しい冬の実情を記録する。
- 一、何よりもまず資本主義批判としてやる。
- 一、新たな出発のため、今まで闘争を話し合う場にする。
- 釜を訪れる支援の人達は、釜ヶ崎を理解しようとして越冬に参加する。なぜなら、越冬時期が、釜ヶ崎の労働者がかかえ

せられている諸問題が、最もわかりやすい形で現実の中にふきだしてくる時期であるからだ。釜ヶ崎の現実

に学ぶ、釜ヶ崎を、自分自身を変えようとして、人々はやっってくる。仲間の中には、見せ物じやないと怒る人もいるが、そうではなくて、釜ヶ崎にいる我々は、逆に、どのような人達が、どのような考えできているのか、興味を持ち、話をして確かめなければならぬのではないか。なぜ、人々は釜ヶ崎に学びにくるのか、釜ヶ崎の何を学ぶにくるのか、そのことを問い、また自分で考え、今いる釜ヶ崎がよりはつきり確認されることにもなるから。